

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2014年1月16日(設定日)から2024年5月27日まで	
運用方針	ファミリーファンド方式により、収益および長期的な信託財産の成長を追求します。	
主要投資対象	当ファンド	東京再開発マザーファンドの受益証券。
	東京再開発マザーファンド	東京再開発関連ビジネスを行う企業もしくは関連企業によって発行された株式および株式関連証券。
主な組入制限	当ファンド	東京再開発マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。
	東京再開発マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> 株式への投資割合には、制限を設けません。 同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の30%以下とします。 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
分配方針	各計算期末に、委託会社が、基準価額の水準や市況の動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。	

東京再開発ファンド

追加型投信／国内／株式

運用報告書(全体版)

第10期

決算日：2018年11月26日

作成対象期間：2018年5月26日～2018年11月26日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼を申し上げます。さて、「東京再開発ファンド」は、2018年11月26日に第10期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

キャピタルアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区神田錦町一丁目16番1号いちご神田錦町ビル5階

< お問い合わせ先 >

【電話番号】 **03-5259-7401**

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

【ホームページ】 <http://www.capital-am.co.jp/>

◆ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		期中 騰落率		
	円	円	%		%	%	百万円
6期(2016年11月25日)	9,035	0	4.2	1,464.53	9.1	95.6	157
7期(2017年5月25日)	10,180	0	12.7	1,578.42	7.8	96.5	146
8期(2017年11月27日)	11,163	500	14.6	1,776.73	12.6	94.0	129
9期(2018年5月25日)	10,264	200	△ 6.3	1,771.70	△ 0.3	92.9	95
10期(2018年11月26日)	8,811	0	△ 14.2	1,632.20	△ 7.9	97.1	73

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額は1万円当たり。(基準価額の全てに共通)

(注3) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 当ファンドは、適切なベンチマークが存在しないため、ベンチマークを設けていません。当報告書では、東証株価指数(TOPIX)を参考指数として表示しています。

◆ 当期中の基準価額と市況等の推移

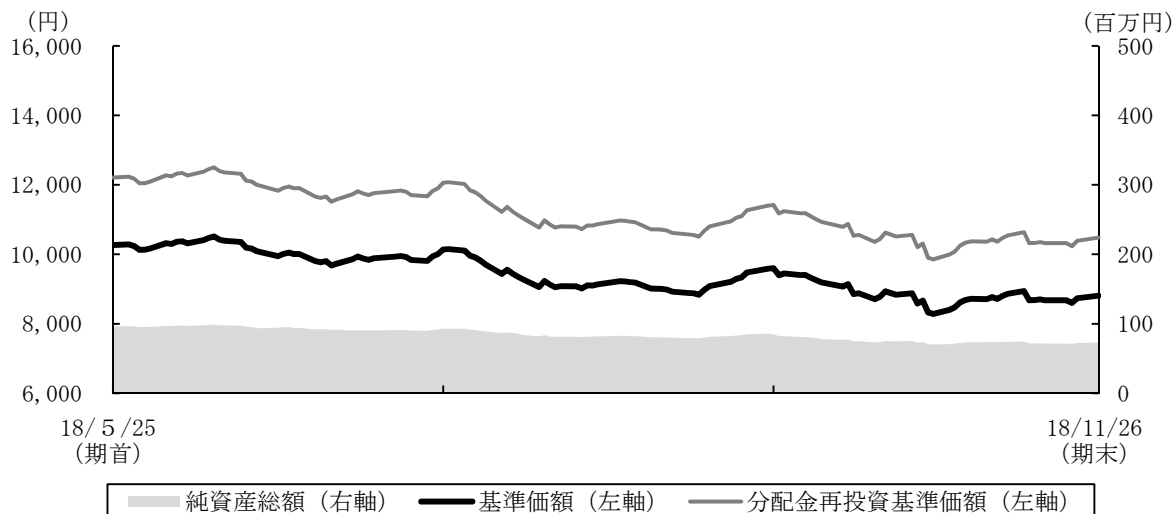
年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率
		騰落率		騰落率	
(期首)	円	%		%	%
2018年5月25日	10,264	—	1,771.70	—	92.9
5月末	10,129	△ 1.3	1,747.45	△ 1.4	85.7
6月末	10,007	△ 2.5	1,730.89	△ 2.3	92.2
7月末	9,959	△ 3.0	1,753.29	△ 1.0	92.7
8月末	9,185	△ 10.5	1,735.35	△ 2.1	95.7
9月末	9,451	△ 7.9	1,817.25	2.6	97.5
10月末	8,618	△ 16.0	1,646.12	△ 7.1	95.5
(期末)					
2018年11月26日	8,811	△ 14.2	1,632.20	△ 7.9	97.1

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

◆ 運用経過の説明 ◆

● 基準価額の推移 (2018年5月26日～2018年11月26日)



第10期首：10,264円

第10期末：8,811円 (当期分配金0円)

騰落率：△14.2% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

● 基準価額の主な変動要因 (2018年5月26日～2018年11月26日)

当期末の基準価額は、前期末に比べて14.2%下落し、8,811円となりました。10月以降、米国株式市場の急落を受けて日本株式市場も軟調に推移し、組入銘柄が下落したことが基準価額下落の主要因となりました。特に、建設や電気機器セクターが軟調で、パフォーマンスを押し下げる結果となりました。

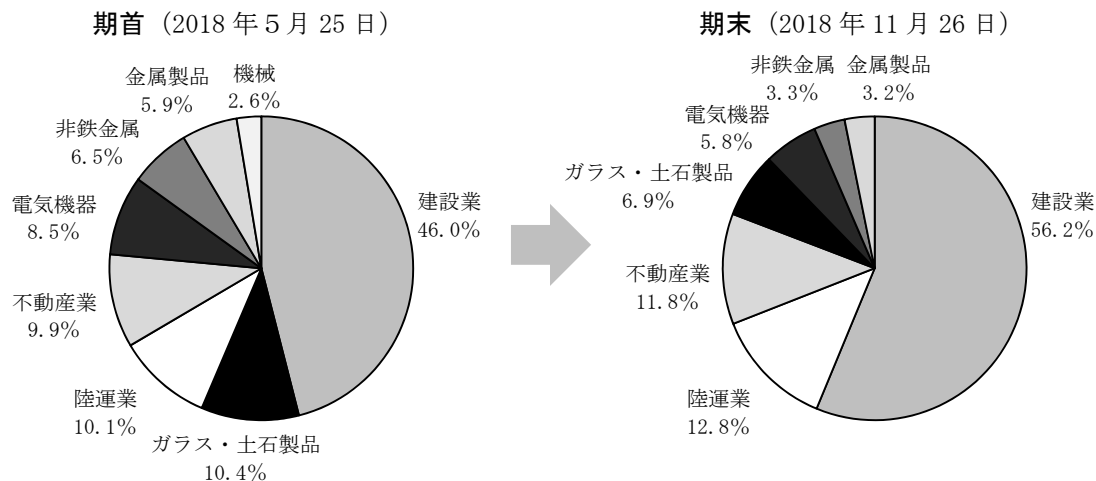
● 投資環境 (2018年5月26日～2018年11月26日)

当期の日本株式市場は下落しました。期初より米中の通商交渉の行方をにらんで上げ下げを繰り返す不安定な株価推移となりました。9月に入ると、米中通商交渉再開観測が強まったことや米国による対中追加関税の税率が当初案から引き下げられたことなどが株式市場にとって支援材料となりました。また、為替市場での円安進行もあり、株価は一時的に急上昇しましたが、10月以降、米長期金利の上昇やハイテクセクターに対する懸念から米国株式市場が急落したこと、またムニューシン米財務長官が日本の通貨安誘導をけん制する発言をしたことなどを理由に、日本株式市場も大幅な下落となりました。日本の代表的な株価指数である TOPIX は前期末比 7.9% 下落し、1,632.20 ポイントで期末を迎えました。

● 当該投資信託のポートフォリオ (2018年5月26日～2018年11月26日)

当ファンドは、東京再開発の恩恵を受けることが期待される銘柄を中心に組み入れております。今期は東京再開発の恩恵を受け、今後の安定的な業績が期待できる建設業セクターのウェートを引き上げました。一方、貿易戦争懸念および中東情勢の悪化などの世界的な地政学的リスクにより、景気減速に対する警戒感が強まっていることから、景気敏感株と言われるガラス・土石製品セクターや非鉄金属セクターのウェートを引き下げました。

【業種別比率の推移】



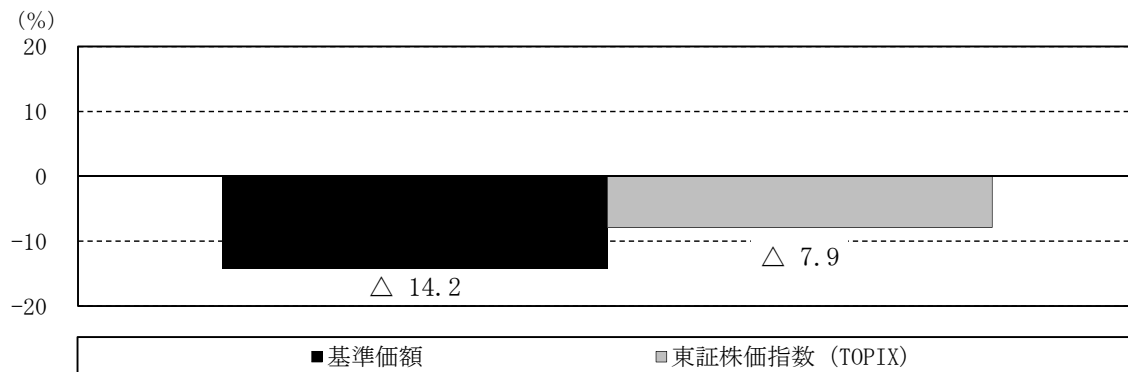
※ マザーファンドにおける株式ポートフォリオに対する比率です。

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、合計が 100% にならない場合があります。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けていません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数である東証株価指数（TOPIX）の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比



(注1) 基準価額は分配金（税引前）込み。

(注2) 当ファンドは、適切なベンチマークが存在しないため、ベンチマークを設けていません。当報告書では、「東証株価指数（TOPIX）」を参考指数として表示しています。

● 分配金

分配原資、基準価額水準等を勘案し、当期の収益分配は見送らせていただきました。留保益は、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用します。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

	第10期
	2018年5月26日～ 2018年11月26日
当期分配金 (対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,705

(注1) 当期の収益は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、当期の収益以外は収益調整金および分配準備積立金です。

(注2) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金（税引前）と一致しない場合があります。

● 今後の運用方針

米中貿易戦争や中国の景気減速懸念、また米ハイテクセクターの先行き不透明感や原油価格の軟調推移などの影響を受けて、短期的には上値限定的な相場展開の可能性が高いとみています。しかしながら、国内企業の業績は概ね良好であり、中長期的に堅調な相場推移を予想します。

今後の運用方針としては、東京再開発が本格化していくことが見込まれ、底固い業績が期待される建設セクターの銘柄を中心に組み入れていきます。

想定されるリスク要因として、世界的な貿易戦争リスクおよび中東の地政学的リスク、トランプ米大統領の政策リスク、英国の EU 離脱など欧州の政治問題、イタリアやギリシャなどの財政リスクなどが挙げられます。

◆ 当期中の1万口(元本10,000円)当たりの費用明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	80円	0.848%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率です。 なお、期中の平均基準価額は9,408円です。
(委 託 会 社)	(36)	(0.383)	・ 委託した資金の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0.438)	・ 運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後のアフターフォローの対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.027)	・ 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.009	(b) 売買委託手数料は期中の金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。 売買委託手数料とは、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
(株 式)	(1)	(0.009)	
(c) そ の 他 費 用	85	0.908	(c) その他費用は期中の金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。
(監 査 費 用)	(18)	(0.191)	・ 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(67)	(0.717)	・ 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	166	1.765	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 「比率」欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

◆ 親投資信託受益証券の設定、解約状況 (2018年5月26日から2018年11月26日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
東京再開発マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 7,733	千円 9,500

(注) 単位未満は切捨て。

◆ 親投資信託における株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2018年5月26日から2018年11月26日まで)

項 目	当 期
	東京再開発マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	21,387千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	115,210千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.18

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

◆ 主要な売買銘柄 (2018年5月26日から2018年11月26日まで)

東京再開発マザーファンドにおける株式の売買

買 付				売 付			
銘 柄	株数	金額	平均単価	銘 柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
				日東紡績	1.5	3,797	2,531
				フジクラ	4.9	3,271	667
				ナブテスコ	1.0	2,877	2,877
				日本コンクリート工業	6.0	2,196	366
				川岸工業	0.6	2,195	3,659
				日新電機	2.1	1,993	949
				安藤・間	1.5	1,383	922
				東日本旅客鉄道	0.1	1,063	10,639
				横河ブリッジホールディングス	0.4	1,019	2,548
				西武ホールディングス	0.5	899	1,799

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

◆ 利害関係人との取引状況等 (2018年5月26日から2018年11月26日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◆ 組入資産の明細 (2018年11月26日現在)

親投資信託残高

種 類	期首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
東 京 再 開 発 マ ザ ー フ ァ ン ド	千口 69,106	千口 61,372	千円 72,088

(注) 単位未満は切捨て。

◆ 投資信託財産の構成 (2018年11月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
東 京 再 開 発 マ ザ ー フ ァ ン ド	千円 72,088	% 97.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,823	2.5
投 資 信 託 財 産 総 額	73,912	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◆ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2018年11月26日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	73,912,031円
コール・ローン等	1,823,934
東京再開発 マザーファンド(評価額)	72,088,097
(B) 負 債	875,860
未払解約金	289
未払信託報酬	106,161
その他未払費用	769,410
(C) 純資産総額(A-B)	73,036,171
元 本	82,890,917
次期繰越損益金	△ 9,854,746
(D) 受益権総口数	82,890,917口
1万口当り基準価額(C/D)	8,811円

<注記事項>当運用報告書作成時点では、監査未了です。

(注) 期首元本額	93,520,198円
期中追加設定元本額	5,464,889円
期中一部解約元本額	16,094,170円

◆ お知らせ ◆

該当事項はございません。

◆ 損益の状況

当期：自2018年5月26日 至2018年11月26日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 1,012円
受 取 利 息	116
支 払 利 息	△ 1,128
(B) 有価証券売買損益	△ 10,259,413
売 買 益	1,168,114
売 買 損	△ 11,427,527
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,484,385
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 11,744,810
(E) 前期繰越損益金	3,708,163
(F) 追加信託差損益金	△ 1,818,099
(配当等相当額)	(5,051,127)
(売買損益相当額)	(△ 6,869,226)
(G) 合 計(D+E+F)	△ 9,854,746
(H) 収 益 分 配 金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 9,854,746
追加信託差損益金	△ 1,818,099
(配当等相当額)	(5,059,286)
(売買損益相当額)	(△ 6,877,385)
分配準備積立金	9,075,080
繰 越 損 益 金	△ 17,111,727

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

東京再開発マザーファンド

運用報告書

第 5 期

(決算日：2018年11月26日)
(作成対象期間：2017年11月28日～2018年11月26日)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限（設定日：2013年11月25日）
運用方針	主として、東京再開発関連ビジネスを行う企業もしくは関連企業によって発行された比較的流動性の高い株式および株式関連証券に投資し、収益および長期的な元本の成長を追求します。
主な運用対象	東京再開発関連ビジネスを行う企業もしくは関連企業によって発行された比較的流動性の高い株式および株式関連証券。
主な投資制限	株式への投資割合は、制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

◆ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株式組入比率	純資産総額
		期中騰落率		期中騰落率		
(設定日) 2013年11月25日	円 10,000	% —	1,259.61	% —	% —	百万円 477
1期(2014年11月25日)	10,230	2.3	1,409.15	11.9	96.8	607
2期(2015年11月25日)	11,678	14.2	1,594.67	13.2	97.6	371
3期(2016年11月25日)	10,731	△ 8.1	1,464.53	△ 8.2	96.8	232
4期(2017年11月27日)	14,222	32.5	1,776.73	21.3	96.0	210
5期(2018年11月26日)	11,746	△17.4	1,632.20	△ 8.1	98.4	101

(注1) 基準価額は1万円当たりです。(基準価額の全てに共通)

(注2) 設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しています。

(注3) 純資産総額は単位未満切捨て、騰落率・組入比率は小数第2位を四捨五入しています。

(注4) 当ファンドは、適切なベンチマークが存在しないため、ベンチマークを設けていません。当報告書では、東証株価指数 (TOPIX) を参考指数として表示しています。

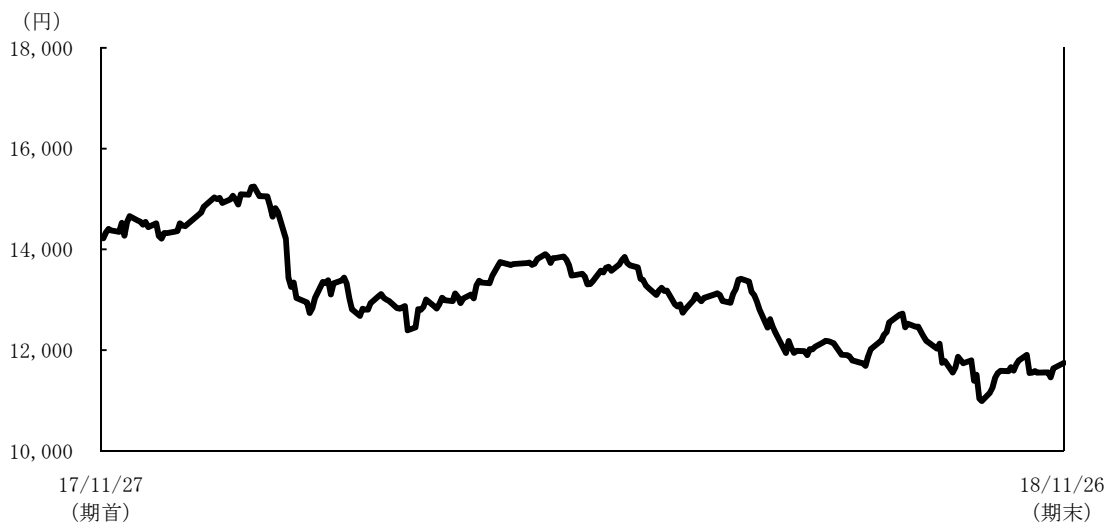
◆ 当期中の基準価額の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率
		騰落率		騰落率	
(期首) 2017年11月27日	円 14,222	% —	1,776.73	% —	% 96.0
11月末	14,405	1.3	1,792.08	0.9	98.0
12月末	14,460	1.7	1,817.56	2.3	95.9
2018年1月末	14,649	3.0	1,836.71	3.4	97.9
2月末	13,320	△ 6.3	1,768.24	△ 0.5	96.7
3月末	13,002	△ 8.6	1,716.30	△ 3.4	97.5
4月末	13,747	△ 3.3	1,777.23	0.0	97.2
5月末	13,310	△ 6.4	1,747.45	△ 1.6	88.7
6月末	13,180	△ 7.3	1,730.89	△ 2.6	95.1
7月末	13,155	△ 7.5	1,753.29	△ 1.3	95.9
8月末	12,137	△14.7	1,735.35	△ 2.3	96.6
9月末	12,524	△11.9	1,817.25	2.3	97.1
10月末	11,449	△19.5	1,646.12	△ 7.4	97.6
(期末) 2018年11月26日	11,746	△17.4	1,632.20	△ 8.1	98.4

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 騰落率・組入比率は小数第2位を四捨五入しています。

◆ 基準価額の推移 (2017年11月28日から2018年11月26日まで)



◆ 1万口(元本10,000円)当たりの費用明細

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (株 式)	6円 (6)
合 計	6

(注) 費用項目の概要及び注記については、6頁の費用明細をご参照ください。

◆ 期中の売買及び取引の状況 (2017年11月28日から2018年11月26日まで)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上 場	千株 15.1 (△7.9)	千円 16,682 (-)	千株 61.7	千円 88,507

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ()内は増資割当、株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

(注3) 単位未満は切捨て。

◆ **株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合** (2017年11月28日から2018年11月26日まで)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	105,190千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	146,232千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	0.71

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

◆ **主要な売買銘柄** (2017年11月28日から2018年11月26日まで)

買 付				売 付			
銘 柄	株数	金額	平均単価	銘 柄	株数	金額	平均単価
	千株	千円	円		千株	千円	円
前田建設工業	3.0	3,706	1,235	日東紡績	4.4	10,458	2,376
川岸工業	3.0	3,001	1,000	大成建設	1.1	6,535	5,940
関電工	1.5	1,862	1,241	大和ハウス工業	1.5	6,205	4,136
東急建設	1.5	1,760	1,173	ミライト・ホールディングス	3.0	4,979	1,659
安藤・間	1.5	1,306	871	日本コンクリート工業	12.0	4,681	390
三井住友建設	2.0	1,287	643	フジクラ	6.4	4,387	685
コムシスホールディングス	0.3	924	3,081	鹿島建設	4.0	4,160	1,040
協和エクシオ	0.3	878	2,928	高砂熱学工業	2.0	3,997	1,998
五洋建設	1.0	822	822	東急不動産ホールディングス	4.8	3,872	806
大林組	0.5	578	1,156	日本信号	4.0	3,837	959

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

◆ **利害関係人との取引状況等** (2017年11月28日から2018年11月26日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◆ 組入資産の明細 (2018年11月26日現在)

国内株式
上場株式

銘柄	期首 (前期末)	当期 末	
	株数	株数	評価額
建設業 (56.2%)	千株	千株	千円
ミライト・ホールディングス	3.0	—	—
東急建設	—	1.5	1,696
コムシスホールディングス	—	0.3	852
大成建設	2.9	1.8	9,144
大林組	—	0.5	571
清水建設	—	0.5	476
鹿島建設	15.0	5.5	8,569
西松建設	0.8	0.8	2,042
三井住友建設	—	2.0	1,442
前田建設工業	—	3.0	3,507
東鉄工業	0.5	—	—
熊谷組	3.2	2.5	8,512
五洋建設	5.0	6.0	4,290
大和ハウス工業	4.2	2.7	9,142
関電工	5.0	4.5	5,134
日本電設工業	1.5	—	—
協和エクシオ	—	0.3	852
高砂熱学工業	2.0	—	—
ガラス・土石製品 (6.9%)			
日東紡績	4.4	—	—
太平洋セメント	2.3	1.8	6,921
日本ヒューム	4.0	—	—
日本コンクリート工業	12.0	—	—
非鉄金属 (3.3%)			
フジクラ	13.5	7.1	3,301
金属製品 (3.2%)			
横河ブリッジホールディングス	2.5	1.8	3,186
機械 (—)			
ナブテスコ	1.0	—	—
電気機器 (5.8%)			
日新電機	2.1	—	—
日本信号	4.0	—	—
京三製作所	12.0	12.0	5,760
陸運業 (12.8%)			
東日本旅客鉄道	0.7	0.6	6,192
西武ホールディングス	3.6	3.1	6,609
不動産業 (11.8%)			
東急不動産ホールディングス	14.9	10.1	6,282
三井不動産	1.0	—	—
三菱地所	1.1	1.1	1,966

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
東京建物	千株 1.3	千株 —	千円 —
サンフロンティア不動産	3.0	3.0	3,525
サービス業(一)			
総合警備保障	0.5	—	—
合 計	株 数 ・ 金 額	127.0	99,975
	銘 柄 数 < 比 率 >	29 銘柄	<98.4%>

(注1) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

◆ 投資信託財産の構成 (2018年11月26日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
株 式	千円 99,975	% 98.4
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,605	1.6
投 資 信 託 財 産 総 額	101,580	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◆ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2018年11月26日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	101,580,716円
コール・ローン等	716,966
株 式(評価額)	99,975,650
未 収 配 当 金	888,100
(B) 純 資 産 総 額	101,580,716
元 本	86,484,172
次 期 繰 越 損 益 金	15,096,544
(C) 受 益 権 総 口 数	86,484,172口
1万口当たり基準価額 (B / C)	11,746円

<注記事項>

(1) 期首元本額	147,522,263円
期中追加設定元本額	2,142,589円
期中一部解約元本額	63,180,680円
(2) 期末における元本の内訳	
東京再開発ファンド	61,372,465円
東京再開発ファンド(米ドルコース) 通貨選択型	20,565,104円
東京再開発ファンド(ユーロコース) 通貨選択型	4,546,603円

◆ 損益の状況

当期：自2017年11月28日 至2018年11月26日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	3,010,861円
受 取 配 当 金	3,013,950
そ の 他 収 益 金	74
支 払 利 息	△ 3,163
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 29,532,277
売 買 益	4,054,413
売 買 損	△ 33,586,690
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△ 26,521,416
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	62,279,869
(E) 解 約 差 損 益 金	△ 21,219,320
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	557,411
(G) 合 計 (C + D + E + F)	15,096,544
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	15,096,544

(注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

◆ お知らせ ◆

該当事項はございません。